

平成 29 年 度

小学校教員資格認定試験
教職に関する科目 (Ⅱ)

家 庭

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 29 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊗ ⊗ ⊗ ⊗

問 1 「学校教育法施行規則」(平成 23 年 4 月 1 日施行)の「別表第 1 (第 51 条関係)」に示されている家庭科の学年別授業時数として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 家庭科は、第 4 学年から第 6 学年に各 60 時間配当されている。
- イ 家庭科は、第 4 学年に 60 時間、第 5・6 学年に各 70 時間配当されている。
- ウ 家庭科は、第 5 学年に 70 時間、第 6 学年に 60 時間配当されている。
- エ 家庭科は、第 5 学年に 60 時間、第 6 学年に 55 時間配当されている。

問 2 次の文は、「小学校学習指導要領」(平成 20 年 3 月)の「第 2 章 第 8 節 家庭 第 1 目標」について述べたものである。家庭科が最終的に目指していることとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 日常生活に必要な知識及び技能を身に付け、自立的な生活を送るための実践的な態度を育てる。
- イ 日常生活に対する関心を高め、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。
- ウ 家庭生活を大切にす心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。
- エ 人間関係を大切にす心情をはぐくみ、社会の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

問 3 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 1 章 総説 3 家庭科改訂の要点 (2) 内容について ウ 家族・家庭に関する教育の充実」について述べたものである。A(1)「自分の成長と家族」の項目に関する記述として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア この項目は、「A 家庭生活と家族」のガイダンス的な内容であり、「B 日常の食事と調理の基礎」から「D 身近な消費生活と環境」の内容と関連させて各学年の最初に学習し、「自分の成長と家族」に関する心構えを築くように設定されている。

イ この項目は、ガイダンス的な内容であるとともに、「A 家庭生活と家族」から「D 身近な消費生活と環境」の内容と関連させて学習することにより、「自分の成長」が学習全体を貫く視点となるように設定されている。

ウ この項目は、ガイダンス的な内容であるとともに、「A 家庭生活と家族」の内容を「B 日常の食事と調理の基礎」から「D 身近な消費生活と環境」においても関連させて扱い、「自分の成長」を確認しながら進めるように設定されている。

エ この項目は、ガイダンス的な内容であり、「A 家庭生活と家族」から「D 身近な消費生活と環境」の内容と関連させて学習するとともに、「自分の成長と家族」について見直し、今後の課題も見いだす内容として設定されている。

問 4 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 指導計画の作成と内容の取扱い」について述べたものである。内容として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 自分の生活における課題を解決するための学習活動として、問題点を探る、課題をつかむ、課題を追究する、分かったことや考えたことを発表し合う、活用の仕方を考えるなどを行う。

イ 「A 家庭生活と家族」から「D 身近な消費生活と環境」は、指導の順序や四つの内容別に指導を示しているものではない。

ウ 家庭との連携を図る一つの方法として、家庭訪問を通して家庭科の学習のねらいや内容を伝えたり、子どもの様子を聴取したりすることが必要である。

エ 実習の指導で、調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わない。

問 5 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 2 節 家庭科の内容構成」について述べたものである。内容の示し方に関する内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 小学校と中学校の内容の体系化を図るとともに、家族や衣食住の生活が身近な環境と密接にかかわっていることを一層明確にした。

イ 小学校と中学校の連携を図るとともに、家族や衣食住の生活が地域の生活と密接にかかわっていることを一層明確にした。

ウ 小・中・高の内容の体系化を図るとともに、家族や衣食住の生活が身近な環境と密接にかかわっていることを一層明確にした。

エ 小・中・高の連携を図るとともに、家族や衣食住の生活が地域の生活と密接にかかわっていることを一層明確にした。

問 6 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 A 家庭生活と家族」について述べたものである。題材の構成に関する内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 生活科や社会科の内容と関連を図り、例えば、それぞれの教科で学習した家庭の仕事や地域の人々の生活を踏まえながら、それらの認識を高め、発展させる題材を A～D の各内容で設定することを重視する。

イ 社会科や理科との関連を図り、例えば、地域の人々の生活と関連させたり、理科で行った実験を取り入れて、A～D の各内容で生活認識や生活の科学性の理解を深める題材を設定することを重視する。

ウ 家庭科の B～D の内容と関連を図り、例えば、自分の仕事とかかわらせて学習させたり、できるようになったことが実感しやすい製作や調理などの学習と関連させて一つの題材としたりするなどの工夫をする。

エ 家庭科の B～D の内容及び道徳との関連を図り、例えば、衣食住の仕事とかかわらせて実感しやすい製作や調理の学習と関連させるとともに、家族の大切さや家族愛に関する内容を含めて題材を作るなどの工夫をする。

問 7 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 B 日常の食事と調理の基礎」について述べたものである。〔2)ウ 1 食分の献立を考えること。〕に関して①～⑤に入る正しい語句の組合せを、下表のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔1 食分の献立を考える〕については、(①)のよい食事を考えるようにする。

(①)のよい食事については、主に(②)のバランスを中心に考えるが、(③)や味のバランスについても気付くようにする。このほかに好みや季節、費用などの観点が考えられるが、ここでは(④)の(⑤)に重点を置く。

	①	②	③	④	⑤
ア	栄養バランス	食 品	色どり	栄養素	組合せ
イ	調 和	栄 養	食 品	食 品	適切な選択
ウ	栄養バランス	食 品	旬のもの	栄養素	適切な選択
エ	調 和	栄 養	色どり	食 品	組合せ

問 8 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 C 快適な衣服と住まい」について述べたものである。〔(1)イ 日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。〕のボタン付けに関する内容として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ボタンの付け方が分かり、自分で付けることができるようにする。

イ ボタンは衣服の打ち合わせをとめるために必要であることが分かるようにする。

ウ ボタンの起源や種類が分かり、それぞれに応じた付け方ができるようにする。

エ ボタンを丈夫に付けることができるようにする。

問 9 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 C 快適な衣服と住まい」について述べたものである。〔(2)ア 住まい方に関心をもって、整理・整頓^{とん}や清掃の仕方が分かり工夫できること。〕の清掃に関して①～⑤に入る語句の組合せとして正しいものを、下表のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

清掃の指導に当たっては、例えば、学校内での(①)の活動などを通して、(②)の種類や(③)に応じた清掃の仕方を考え、身に付けるようにするとともに、(②)は時間が経つと(④)なることや、住居用洗剤は使い方の(⑤)をよく見て使用する必要があることなどにも気付くように配慮する。

	①	②	③	④	⑤
ア	掃 除	ご み	汚 れ	取れにくく	説 明
イ	汚れ調べ	汚 れ	汚れ方	落ちにくく	表 示
ウ	掃 除	ご み	汚 れ	落ちにくく	表 示
エ	汚れ調べ	汚 れ	汚れ方	取れにくく	説 明

問10 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 D 身近な消費生活と環境」について述べたものである。〔(2)環境に配慮した生活の工夫〕に関する内容として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 物を長く使うために、様々な衣類のリフォームやバザーの企画・開催を積極的に行う。
- イ 環境にできるだけ負荷をかけないように、物を長く大切に活用する。
- ウ 無駄なく使い切ったり、使い終わった物を他の用途に再利用する。
- エ リサイクル活動などの環境に配慮した地域の取組にも関心をもつ。

問11 総務省が1976年より5年ごとに行っている「社会生活基本調査」では、私たちが1日のうちののくらの時間をどのような活動に費やしているか、また、過去1年間にどのような活動を行っているかなどについて調査している。次の文は、10歳以上の世帯員が調査対象となった1996年以降の調査の結果から、10～19歳の生活時間や行動について記述したものである。正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 10代前半の睡眠時間は、著しく減少している。
- イ 学業にかける時間は、2001年以降、短大・高専を除いて増加傾向にある。
- ウ 休養・くつろぎの時間は2006年から2011年にかけて、10代前半で増加し、10代後半では減少した。
- エ 1年間にボランティア活動を行った者の割合は、増加傾向にある。

問12 我が国の子供の貧困問題についての記述で誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 子供の相対的貧困率は、1990年代半ば頃からおおむね上昇傾向にある。
- イ 経済的理由により就学困難と認められ就学援助を受けている小学生・中学生は2012年には約155万人で、1995年度の調査開始以降初めて減少したが、その主な原因は子供の数全体の減少によるものである。
- ウ 2013年6月に成立した「子どもの貧困対策の推進に関する法律」において、「子どもの貧困対策は、国及び地方公共団体の関係機関相互の密接な連携の下に、関連分野における総合的な取組として行われなければならないこと。」を基本理念の一つとしている。
- エ 2014年8月に閣議決定された「子供の貧困対策に関する大綱」では、「第一に子供に視点を置いて、切れ目のない施策の実施等に配慮する。」を基本的な方針の一つとしており、保護者に対する就労の支援は、子供の貧困に関する指標の改善に向けた当面の重点施策には挙げられていない。

問13 次の各文のうち、栄養や食品に関する記述として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 牛乳に含まれる栄養素で最も量が多いのは、無機質のカルシウムである。
- イ 肉や卵のたんぱく質は、必須アミノ酸を適切な割合で含むので、良質たんぱく質という。
- ウ 米に含まれるでんぷんは、消化されて食物繊維として働く。
- エ 飽和脂肪酸を多く含む油脂は、室温で液体の状態であることが多い。

問14 次の各文のうち、調理器具等の扱い方として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 包丁は柄をしっかりと握り、まな板に対して両足をそろえて立つ。
- イ ガスこんろの中火は、鍋底に火の先があたる程度の火加減である。
- ウ 上皿自動はかりは、平らなところにおいて針を0に合わせ、目盛りは正面から読み取る。
- エ 計量スプーンで粉類を量るときは、山盛りにすくってからすり切る。

問15 次の各文のうち、調理の基礎として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 野菜炒めは、フライパンに油と野菜を入れてから火をつけ、中火で加熱する。
- イ ゆで卵は、鍋に卵とたっぷりの湯を入れてから火をつけ、加熱する。
- ウ 米は、水が透明になるまで十分に洗って水気を切り、適量の水を加えて炊く。
- エ 煮干しでだしをとるときは、頭とはらわたを取って、しばらく水につけてから加熱する。

問16 次の各文のうち、ミシンの使い方に関する事項として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 縫い目の糸調子を整えるためには、上糸と下糸の引っ張り合う強さが合うようにする。
- イ 下糸を巻くときは、始まりから終わりまで、糸はしを持ったままコントローラーを踏む。
- ウ 送り調節器の目盛りの数字を0に合わせると、布が送られる。
- エ 針は、電源スイッチが入った状態であることを確認して、つけたりはずしたりする。

問17 次の各文のうち、衣服の快適な着方に関する記述として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 暑いときには、汗の蒸発による放熱を促すために、吸水性や通気性のよい素材を使用した衣服を着るとよい。
- イ スポーツをするときには、身体の動きや変形を妨げないようにするために、伸縮性のよい素材が含まれた、動作機能性のよい衣服を着るとよい。
- ウ 寒いときには、体熱が逃げないように、熱伝導率の低い空気をとどめやすくするために、衣服を重ね着するとよい。
- エ 寝るときには、汗や皮脂をよく吸収し、洗濯に耐えられる素材を使用し、睡眠中の寝姿勢が変えられるように、体に密着した衣服を着るとよい。

問18 次の文は、快適な住まいに関する記述である。誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 石油を使用する暖房器具には開放型や密閉型があるが、ファンヒーターは開放型なので、換気を欠かしてはならない。
- イ LED は、直ちに点灯する白熱電球の長所と、寿命が長く消費電力が少ない蛍光灯の長所を、兼ね備えた照明である。
- ウ 夏季に「西日」が暑いといわれるのは、住宅の西面が受ける日射が東面よりも強いからである。
- エ 気温は同じでも、湿度が高くなると水分の蒸発がしにくくなって体から失われる熱が少なくなり、体感温度が上昇する。

問19 次の文は商品のマークについての記述である。①～⑤の組合せとして正しいものを、下表の
ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 原料に古紙を規定の割合以上利用していることを表している。
- ② 紙製の容器包装に表示されている。段ボール製の容器包装と飲料用紙パック(内側にアルミニウムが張られていないもの)には表示されない。
- ③ 安全基準値を満たした電気製品であることを表している。
- ④ 安全性が確認された消費生活用品(乳幼児製品、家具、スポーツ用品等)であることを表している。
- ⑤ 安全性が確認されたおもちゃであることを表している。

	①	②	③	④	⑤
ア					
イ					
ウ					
エ					

問20 次の図1～図4は、小学生のお金にまつわる日常生活などに関する調査の結果である。これらの図からわかることとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

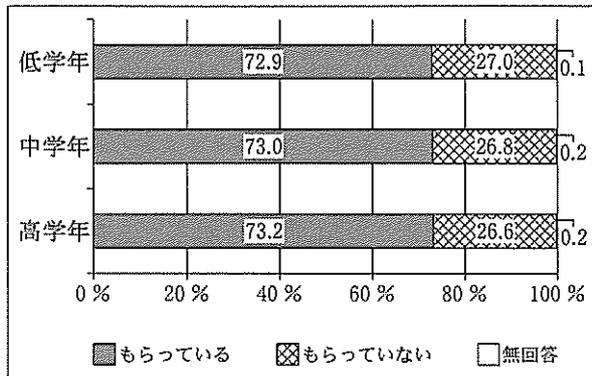
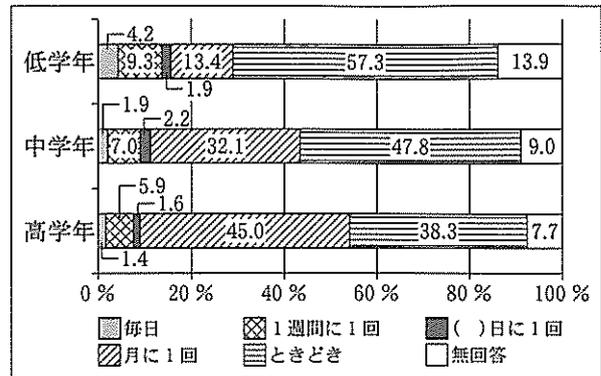


図1 おこづかいの有無



(「()日に1回」は、回答者が任意に数を入れて答えたもの)

図2 おこづかいのもらい方

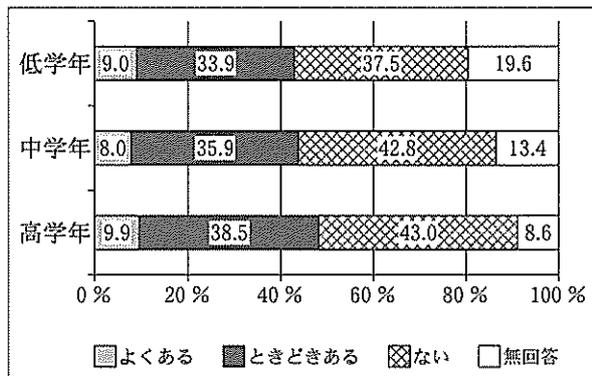


図3 おこづかいが不足した経験

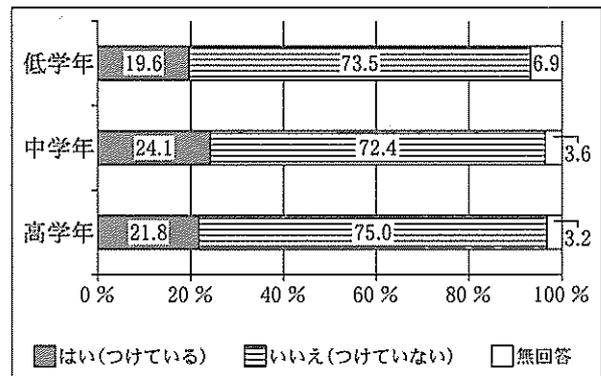


図4 「おこづかい帳」をつけているか

(金融広報中央委員会『子どものくらしとお金に関する調査』(第3回)2015年度調査)より作成

- ア 「おこづかいが不足した経験」が「よくある」「ときどきある」のは、おこづかいを「ときどきもらっている」小学生である。
- イ 「おこづかいのもらい方」が定期的である小学生ほど、「おこづかい帳」をつけている。
- ウ およそ7割の小学生が「おこづかい」をもらっており、高学年ほど「おこづかいのもらい方」が定期的になっている。
- エ 「おこづかい帳」をつけているおよそ2割の小学生は、「おこづかいが不足した経験」がない。